事項八　鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件

五〇一　一月四日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

日本軍隊ノ附属地外行軍ニ付中国側ヘ予告ニ関スル件

附記一　大正三年十二月二日附在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛公第二二六号我軍隊ノ附属地外行軍ノ場合ハ十日以前ニ通知アリタキ旨中国側申越ノ件

二　大正三年十二月二十一日附在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛公第二三四号附属地外行軍予告ニ関シ関東都督府ヨリ意見回示ノ件

三　大正三年十二月三十日附加藤外務大臣ヨリ中村関東都督宛政機密送第八〇号附属地外行軍ノ場合ハ中国側ニ予告アリタキ旨訓令ノ件

機密公第一号　（一月八日接受）

大正四年一月四日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

我軍隊ノ附属地外行軍予告ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月三十日附政機密送第一三四号（註）ヲ以テ関東都督宛御訓令写御送附相成拝承仕候然ル処所謂附属地附近ノ行軍ニ付テハ従来支那側ヘ予告セサリシ場合モ有之先般都督府ノ回答ハ実際ノ取扱振ニ照シ相当ト認メラレ又一方鉄嶺行軍部隊ニ対スル発砲事件ノ交渉モ別便報告ノ如キ成行ナルニ就キ本件予告ノコトニ就テモ此際回答シ置クコト可然ト認メ客年十二月二十八日附ノ公文ヲ以テ関東都督府ヨリノ回答ニ拠リ支那側ヘ及回答置候次第ニ有之而シテ苟モ附属地以外ニ渉ル場合ニハ其都度必ス支那側ニ予告スヘキコトヲ約諾シ置クコトハ不利益ノ場合不尠ト認メラレ且一旦先方ヘ送附セル回答ヲ訂正スルコトハ甚タ面白カラサル次第ト被思料候間今回御訓令ノ次第ハ関東都督府ニ於テ向後実際ノ取扱上可成支那側ニ予告セラルルノ方針ニ決定相成ルコトニ為シ別段右ニ付既ニ支那側ヘ発シタル回答ヲ変更セサルコトニ御承認ヲ得度此段稟申候　敬具

註　左掲附記三

（附記一）

大正三年十二月二日附在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛公信

我軍隊ノ附属地外行軍ノ場合ハ十日以前ニ通知アリタキ旨中国側申越ノ件

公第二二六号　（大正三年十二月七日接受）

客月三十日附ヲ以テ支那側ヨリ別紙甲号写ノ通リ奉天省ニ於テハ馬賊ノ跳梁甚タシク且ツ巡警兵士等ヲ仮装スルモノモアリ地方人ニシテ外来軍警ヲ匪徒ナリト誤解スルモノアリトテ八面城西方ニ於ケル我行軍隊ニ対シ預備巡警ノ発砲事件ヲ挙ゲ我軍隊カ将来鉄道用地外ニ行軍スル場合ニハ十日以前ニ予告アリタキ旨照会致越候ニ付右ニ関スル関東都督府ノ意見別紙乙号写（註省略）ノ如ク問合置候処此際本件ノ照会ヲ為シ来リタルハ目下当方ヨリ八面城附近ニ於テ預備巡警ノ我カ行軍隊ニ対シ発砲シタル事件ニ対シ交渉ヲ始メ其成行ハ前ニ機密公第二三四号ヲ以テ及報告候如クニ有之同信中ニ述ヘタル如ク該件我行軍隊ノ出発カ通報ト同日ニシテ一般ニ周知セシムルノ時間ヲ有セサリシ云々ヲ口実トシ自家ノ責任ヲ軽クセントスル意向ヲ有シ居レル次第ニ付本件ニ付回答ヲ与フルト共ニ斯ル事情ノ為支那側ノ責任ハ決シテ軽減サルルモノニアラサルコトヲ説示スヘキ考ニ有之候為御参考右及報告候　敬具

（別紙）

甲號写

敬啓者案奉

巡按使飭開准

上將軍行署函開奉省盗匪充斥搶案迭出而狡黠之匪往々假冒軍警辨識頗難故各地軍警對於形同營兵者盤詰尤密當地紳民見有外來軍警率疑爲盗匪僞託倉皇失措每驚起而抵禦之乃日本陸軍行動於鐵路用地外毎不預爲通知而已過定期卽事後飭行該處軍警知照亦屬無及遂致釀成八面城之誤會發生洮遼日軍撤防之交渉也前車可鑒後患宜防若不預爲之圖將來恐多貽悞相應函請貴巡按使照飭行交渉員與日領妥爲會商嗣後日本軍隊如出鐵路用地外行動務須於十日前通知以便轉飭該處軍警知照免生誤會用固邦交等因合行飭仰該員卽便遵轉照向日領妥商辦理並將遵辦情形具復等因轉行到署用特函請貴總領事査照轉告各護軍隊照辦並希見復此頌

臺祺　署理外交部特派奉天交渉員祝灝元啓

大日本駐奉總領事落合臺鑒

中華民國三年十一月三十日

（右和訳文）

拝啓陳者上将軍行署ヨリ照会有之候趣ニテ巡按使ヨリ下命有之候処ニヨレバ奉天省ハ盗匪多ク被害事件相踵テ起リ狡黠ノ匪徒ハ往々兵士巡警ニ仮装シ頗ル弁別シ難シ故ニ各地軍警ニ於テハ同様ノ服装ヲ為ス者ニ対シテハ厳密ニ誰何シツツアリ各地方民ハ外来ノ軍警ニ対シテハ率ネ盗匪ノ為ニ偽ラレ倉皇措処ノ機ヲ失センヲ疑ヒ常ニ群起シテ之ニ抵抗防禦ス乃チ日本陸軍カ鉄道用地外ニ行動スルニ常ニ預メ通知セサルノミナラス又已ニ期ヲ過キ事後該地軍警ニ通知方ヲ命スルモ亦及ハサルナク遂ニ八面城ノ誤会ヲ醸成シ洮遼ノ日本軍ノ撤退交渉モ発生スルニ至レルナリ前車ヲ鑒ミ後患ハ宜ク防クヘシ若シ預メ之カ図ヲ為ササレハ将来悞ヲ貽ス多ヲ恐ルル次第ニ付貴巡按使ヨリ交渉員ヲシテ日本領事ト可然会商シ爾後日本軍隊カ若シ鉄道用地外ニ出テ行動セントスル場合ニハ務テ十日前ニ右通知シ以テ当該地方ノ軍警ニ通知シ誤解ナカラシメ邦交ヲ固フスヘク命令スルニ便ナラシムヘシト申来タレルヲ以テ茲ニ該員ニ右ニ従ヒ日本領事ト商議シ茲ニ竝ニ同商議ノ次第復命スヘシト有之候ニ付右ノ趣各軍隊ニ対シ右ノ通リ実行方御移牒相成候上何分ノ儀御回答相成度此段申進候　敬具

（附　記二）

大正三年十二月二十一日附在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛公信

我軍隊ノ附属地外行軍予告ニ関シ関東都督府ヨリ意見回示ノ件

公第二三四号　（大正三年十二月二十五日接受）

本件ニ関シ本月二日附公第二二六号ヲ以テ申進置候通リ同日附ヲ以テ関東都督府宛右ニ関スル同府ノ意見問合置候処今般別紙写ノ通リ回答有之候然ル処目下支那預備巡警ノ我行軍隊ニ対シ発砲シタル件ニ就キ交渉中ニ付其内時機ヲ見テ右都督府回答ノ意味ニテ支那側ニ回答スヘク考ヘ居候右御含ミ置相成度此段申進候　敬具

（別　紙）

写

機外第一七七号ノ三

大正三年十二月十九日

関東都督男爵　中村覺

在奉天

総領事　落合謙太郎殿

我軍隊ノ附属地外行軍予告方ニ関スル件

本件ニ関シ本月二日附都第一八二号ヲ以テ御照会ノ趣了承致候鉄道附属地外ニ行軍ヲ為ス際支那官民ノ誤解ヨリ紛擾ヲ惹起スルカ如キハ我軍隊ニ於テモ甚タ迷惑ニ感シ且遺憾トスル処ニ有之候間将来共可成支那側希望ノ通十日前ニ通知シ得ル様取計ハシムヘク候ヘ共教育上ノ必要ニ依リ時トシテハ俄ニ実施スルコトアルヘキヲ以テ一定ノ期日前ニ予告シ難キ場合モ可有之候間斯カル際ニハ支那官憲ニ於テモ所有方法手段ヲ講シ関係地方官民ニ周知セシメ誤解ヲ来ササル様為致度尚右ノ予告ハ従来実行シ来レル如ク鉄道附属地ヨリ甚シク遠隔セル地方ニ行軍スル場合ニ限リ附属地附近ニ於ケル行軍等ニハ予告ヲ為ササル義ニ有之候条右御含ノ上可然御回答方御取計相煩度此段回答得貴意候也

（附　記三）

大正三年十二月三十日附加藤外務大臣ヨリ中村関東都督宛公信

我軍隊ノ附属地外行軍ノ場合ハ中国側ニ予告アリタキ旨訓令ノ件

政機密送第八〇号

本件ニ関シ十二月十九日附機外第一七七号ノ三貴信ヲ以テ在奉天落合総領事宛御回示ノ趣今般同官ヨリ報告致越タルカ右貴信ニ拠レハ本件予告ハ従来貴府ニ於テ実行シ来レル如ク鉄道附属地ヨリ甚シク遠隔セル地行ニ行軍スル場合ニ限リ附属地附近ニ於ケル行軍等ニハ一切予告ヲ為ササル義ナル趣ニ有之候処仮令附属地附近ト雖モ附属地以外ニ出デテ行軍ヲ為ス場合ニ於テ何等予告ヲ行ハサルニ於テハ自然支那側等ヨリ無用ノ誤解ヲ招クコトモ可有之延テ大局上面白カラサル影響ヲ及ホスノ虞アルノミナラズ事故発生ノ場合ニ於テ我ノ立場ヲ不利ナラシムル結果ヲ生スヘク候ニ付今後ハ鉄道附属地外ニ行軍ヲ為ス場合ニハ成ルヘク適当ノ期間前ニ支那官憲ニ対シ可然予告ヲ与フルコトニ御変更相成候様致度此段及訓令候也

五〇二　一月十四日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛

附属地外行軍予告方ニ付テハ請訓ノ通ナル件

政機密送第七号

本件ニ関シ一月四日附機密公第一号ヲ以テ御稟申ノ趣閲悉関東都督宛当方訓令ノ趣旨モ右機密公第一号貴信御来示ノ意味合ニ有之候ニ付本件ハ御請訓通リト御承知相成度此段申進候也

追テ本件往復関東都督ヘモ写及送付置候間此段為念申添候也

五〇三　一月三十日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

蒙古銃器密輸事件及日本軍中国巡警衝突事件ニ関シ田交渉員トノ会談内容報告並鄭家屯撤兵ニ付請訓ノ件

機密公第三一号　（二月三日接受）

大正四年一月三十日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

一昨々年ノ銃器輸送事件ト昨年ノ鉄嶺ノ行軍部隊ニ対スル発砲事件ニ付田交渉員来談ノ次

第報告ノ件

本件ハ去十四日附機密公第一四号報告後其儘ト相成居候処本月二十八日田交渉員来訪シ前信報告ノ榊原ノ農場問題ノ件ヲ談話シタル後本件ニ言及シ同人本月十四日来訪本件ニ関聯シテ鄭家屯駐屯日本軍隊ノ引揚ヲ要求シタルニ対シ本官ガ右ノ軍隊撤退ノコトハ本件善後交渉ニ関係無ク日本側ニ於テ必要無シト認ムル時期ニ至ラバ撤退スベシト答ヘタルヲ以テ本件交渉解決ニ行悩ヲ来タシ居リシガ巡按使及交渉員ニ於テ此種事件ヲ長ク懸案トシ存置スルヲ欲セズ又直ニ本件ニシテ解決セバ将来他種案件解決モ亦容易ナルモノアルベシト信ズルヲ以テ過般主張シタル撤兵ハ之ヲ切望スルモ今回之ヲ別問題ト為シ本件ノミノ交渉ニ復帰シテ商議ヲ進行セントス就テハ昨年ノ行軍隊ニ対スル発砲事件ニ付本官ヨリ提出セル六ケ条中ノ内前四ケ条ハ大体ニ於テ承認ノ旨ヲ述ベ置キタル次第ニテ第五項ハ支那側承諾ニ便ナル様字句ヲ修正シ第六項ハ此際本交渉ヨリ分離シテ懸案トスルト云フコトニ本官承諾シ居レル次第ナルガ此際更ニ前四ケ条中ニ在リタル日本側負傷者ニ対スル見積金額ニ付テ更ニ改メテ商議シタシト申出デタルヲ以テ本官ハ行軍部隊ニ関スル六ケ条ノ要求中前四ケ条ハ既ニ承諾ノ旨申出デラレタル次第ニシテ今ニ至リ再ビ之ヲ変更セントスルガ如キハ交渉ヲ混雑セシムルモノニシテ解決ヲ求ムル所以ニアラサルベシ又第五第六ノ条項ニ就キ交渉員ノ話シタル処ハ是正シ置クノ要アリ即我方ニテハ六ケ条項共貫徹ヲ必要トスルモノニテ特ニ第五第六ノ二条項ハ重キヲ置ク処ナルモ支那側ニ於テ承認スルコト困難ナリト訴ヘラルルヲ以テ右二項ニ付多少緩和ノ途ヲ講ジ第五項ハ大体ノ主旨ヲ貫徹スルコトトスルモ其ノ字句ヲ修正シ支那側ニ於テ承認シ易カラシムル様改ムルコトトシ第六ハ之ヲ懸案ト為スコトトスルノ案ヲ立テ支那側ニ於テ右ニヨリ解決セントノ希望ナレバ本官ヨリ政府ニ上申スベシト云ヒタル次第ニシテ右ハ未ダ公然ノ資格ヲ以テ本官ヨリ提議シタルモノニアラズト注意シタル処田ハ右本官ノ意見ハ日本政府ニ於テ採用セラルベキヤ否ヤト問ヒタルヲ以テ本官ハ右ニテ纏ムルコトヲ望ムトノコトナラバ本官ノ力ノ及ブ限リ之ガ採用ヲ得ベキ様充分ニ尽力スベシ但シ政府ガ必ズ承認スベシト約シ能ハザルハ言ヲ俟タザル次第ナル旨ヲ答ヘタルニ田ハ然ラバ之ヲ上申シ認可セラルル様尽力アリタキ旨ヲ述ベ次デ鄭家屯駐屯軍隊ノコトニツキ日本軍隊撤退ノコトヲ別個問題トスルニ於テハ本件交渉ノ解決後尚ホ日本軍隊駐屯ヲ見ルコトアルベキ処先般三江口ニ於ケル事件アリ当時電報及報告ニ拠リテ日本側ニ照会スル処アリタル次第ナルガ再ビ同様ノ事件ヲ惹起シ又ハ問題ヲ生ズルガ如キハ相互好マシカラザルコトニ付将来万一同様事件発生スルコトアラバ日本軍隊ヨリ地方官憲ニ対シ交渉セラレ直接事件ノ当事者タル人民ヤ巡警等ニ検束ヲ加フルガ如キ事無キ様セラレタク右予メ声明スト云ヒタルニ付本官ハ右ハ声明ト云ハルルモ要求ナルモノノ如シ然ルニ本来軍隊ハ紀律ヲ尚ビ名誉ヲ重ズルコト他ニ比スベカラザルモノアルヲ以テ苟モ軍隊ニ対シ侮辱ヲ加フルガ如キ者アランカ其者ニ対シテ直ニ相当ノ措置ヲ執リ場合ニヨリ之ニ勢威ヲ加フルノ途ニ出ヅル事モアルベシ就テハ交渉員申出シ議ハ支那側ノ希望トシテハ其筋ニ取次キ置クベキモ必ズ要求ノ通リ行ハルル様承諾ヲ得ルコトハ至難ナリト述ベタルニ田ハ声明ト云ヒタルハ実ハ本件解決後ニ於テ右ノ如キ申出ヲ為サバ又新要求ヲ出シタリトセラルルコトアリテハ不本意ニ付今ヨリ預メ右希望ヲ述ヘ置クト云フコトナリト云ヒタルヲ以テ本官ハ之ニ就テハ前陳ノ通リ

其筋ニ取次ギ置クベキモ支那側ニ於テ地方官ニ発訓シ一般民ヲシテ日本軍隊ニ対シ苟モ侮辱的言語動作ヲ敢テスルガ如キコト無キ様注意スルヲ必要トスト云ヒタルニ田ハ更ニ語ヲ継ギテ軍隊ノ件ハ兎モ角モ目下駐在シツツアル警察官ハ如何ニセラルルヤト云ヒタルヲ以テ本官ハ鄭家屯駐在ノ警察官ハ毫モ八面城事件ニ関係ヲ有スルモノニアラズ同件発生以前ヨリ該地在留邦人ノ生命財産保護ノ為メ派出シ居レルモノナル旨語リタルニ田ハ本件発生以前ヨリ駐在スルモノナラバ此際之ニ言及セザルベシト言ヒ更ニ前段当方ノ要求条項第五ノ文句修改ノコトヲ挙ゲ文句ノ修正ニ対スル本官ノ復案アラバ承リタキ旨述ベタルニヨリ本官ハ未ダ具体的ノ案ヲ有スル次第ニアラザルモ「将来同様ノ事件発生スルガ如キコトアラバ日本側ニ於テ自ラ適当ト認ムル措置ヲ執ルノ不得已ニ至ルベキヲ以テ斯ル事件ノ発生ヲ防グ様支那側ニ於テ充分措置スベシ云々」トノ書方トセバ当方ノ主意ヲ明ニスルト共ニ自ラ適当ト認ムル措置云々ハ事理ノ説明ナリト新ニ支那側ニ対シ約束ヲ求ムルコトニアラサルヲ以テ承認シ然カルベシト述ベタルニ田ハ斯ノ如クンバ要スルニ当初ヨリノ話ト同様ナリト云ヒタルヲ以テ本官ハ趣旨ニ於テ大ニ異ナリ居ルコトヲ説明シタルガ尚ホ本項ノ書方ニ就テハ支那側ニ於テ承認シ得ラルル様一層研究セラレタシト述ベタルニヨリ本官ハ一面田交渉員ノ希望ニヨリ本官ノ私見ヲ上申スルト共ニ第五項ノ書方ニ付考量ヲ加ヘ置クベシト答ヘタルニ田ハ然ラバ日本政府ヨリ回答ヲ待ツベシト語リ且ツ自己及巡按使ノ本件解決ハ勿論日支関係事件ニ就テハ誠意ニ且ツ可成速ニ解決ヲナシ以テ国交親密ノ増進ニ努力セントスルモノナルヲ縷述シ辞去致候鄭家屯駐屯軍隊ノ撤退ハ支那側ニ於テ本件善後交渉ノ目的ト為シ居リタル処ニシテ其提議ノ時期宜シキヲ得ザリシ為メ我方ニ於テ之ヲ拒絶シタルニ対シ一旦ハ極力之ヲ主張シタルモ我方ノ態度動カシ難キヲ感知シタルモノノ如ク今ヤ之ヲ別問題トシテ善後交渉ヲ継続スルコトニ折合ヒ来リタルハ支那側ニ於テ従来執タル頑固ナル態度ニ稍ヤ変化アリタルコトヲ認ムベクト存シ候就テハ予テ御訓令ニヨリ裁量ヲ許サレアル範囲ニ於テ撤兵問題ヲ離レテ善後交渉ヲ進メ得ル限リ進捗可致考ニ付右様御了承置相成度尚ホ撤兵ハ右様ノ成行ナルニ係ハラズ支那側ノ切望スル所ナルヲ以テ本件解決ノ暁又ハ交渉結了ノ頃改メテ之ヲ提議スルコト無キヲ保セズ又支那側ノ被害者ニ対スル慰藉金ノコトモ未ダ断念シタル確証モ無之ニ付他日改メテ申出ヅルコト或ハ可有之ト思考セラレ候処後者ハ当然之ヲ拒絶スベキ議ト認メラルルモ内地駐兵ノコトハ元々臨機非常ノ措置ニシテ一方ニ於テ善後ノ交渉解決シ他方ニ於テ関係地方ニ差当リ不穏ノ模様無キ今日撤兵ヲ否ムノ理由モ薄弱ナルヤニ思考セラル就テハ鄭家屯駐兵以来同地ニ頗多数ノ本邦人住居シ恰モ開放地ノ如キ観ヲ有スルニ至リタル事実ト此際漫然ト撤兵セバ此等本邦人ノ位置ハ不利益ノ影響アルハ免レ難キ形勢ナルトニ顧ミ同地在住本邦人ノ位置ヲ鞏固ニシ安全ヲ保護スベキ相当ノ方法ヲ設クルコトヲ条件トシテ撤兵スルコトニ御詮議置相成候様致度ト存候

右卑見ニ関シ何分ノ儀至急御回訓相成度此段申進候　敬具

五〇四　二月五日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

附属地外行軍予告方ニ関スル中国側申越ニ対シ回答シタル件

附属書一　大正三年十二月二十八日附落合総領事ヨリ田奉天交渉署長宛照会附属地外行軍予告方ニ関シ回答ノ件

二　大正四年一月田奉天交渉署長ノ各県知事ニ対スル訓令日本軍附属地外行軍ニ関シ注意方ノ件

公第一九号　（二月十日接受）

大正四年二月五日

在奉天
総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

我軍ノ附属地外行軍予告方ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二年二十八日附ヲ以テ別紙甲号写ノ通リ支那側ニ対シ関東都督府ヨリノ回答ニ基キ回答ニ及ビ置候処同交渉員ノ名ヲ以テ同乙号写ノ通リ奉天公報ヲ以テ我軍隊ノ附属地外行軍ノ場合ニ付注意方各県知事ニ対シ訓令致シ居リ候ニ付為御参考此段及報告候　敬具

（附属書一）

甲号写

拝啓陳者客月三十日附貴翰ヲ以テ我駐屯軍隊ニシテ鉄道附属地外ニ行動スル場合ニハ十日前預告方ニ付御申越ノ趣致閲悉候右関東都督府ヘ申送置候処今般同府ヨリ回答有之候

処ニヨレバ我軍隊ニ於テモ附属地ニ行軍ヲ為スニ際シ貴邦官民ノ誤解等ニヨリ紛擾ヲ惹起スルガ如キハ遺憾トスル処ニ有之候ニ付将来共可成貴方ノ希望ニ副フ様取計ハシムベク候ヘ共教育上ノ必要ニ依リ時トシテハ俄ニ行軍ヲ実施スルコトアルベキヲ以テ一定ノ期日前ニ予告シ難キ場合モ可有之候間斯カル際ニハ貴方官憲ニ於テモ所有方法手段ヲ講ジ関係地方官民ニ周知セシメ誤解ヲ来タサザル様御手配相成候様致度尚ホ右行軍ヲ貴方ニ予告スルコトハ従来実行シ来レル如ク鉄道附属地ヨリ甚タ遠隔セル地方ニ行軍スル場合ニ限ルモノニシテ其ノ附属地附近ニ行ハルルモノハ予告ヲ行ハザルモノナル旨申添越候ニ付右様御了知相成度此段回答申進候也

大正三年十二月二十八日

大日本帝国奉天総領事　落合謙太郎

奉天交渉署長　田潛殿

（附属書二）

乙號寫

中華民國四年一月　日

外交部特派奉天交渉員署飭第七號

爲通飭事查日本駐紮南滿鐵路附近軍隊時有於鐵路用地以外行軍之事前經本署咨請駐奉日總領事約於十日之前預有通知免致彼此有誤會衝突之虞茲准復稱日本軍隊行軍於鐵路用地以外因貴國官民誤解致惹起紛擾寔爲遺憾此後務副貴署之希望辦理惟臨時行軍爲敎育軍隊起見有遽然寔行者寔難於一定期日之前預爲通知如遇此種情形務請貴國官憲講求完全方法通告有關係地方官民俾免生誤解再行軍預告向所寔行者惟以距離鐵路用地最遠之地方爲限至於鐵路用地附近之地方行軍卽不預告特此聲明請煩查照等因查此種辦法本爲防患於未然設遇倉猝行軍勢難責以預告嗣後各該縣知事於日軍行動時務須特別注意立時飭警曉諭居民勿生誤解以重邦交而敦睦誼爲此飭仰各縣知事卽便遵照剴切出示曉諭各色人等一體知悉勿違切切此飭

簡署外交部特派奉天交渉員田潛

右飭各縣知事准此

（右和訳文）

中華民国四年一月　日

外交部特派奉天交渉員署命令第七号

布達ノ事ヲ為ス査スルニ南満鉄道附近ニ駐屯スル日本軍隊ガ時々鉄道用地外ニ行軍スル事アリ前ニ本署ハ駐奉日本総領事ニ対シ彼此誤会衝突等ノ虞ナカラシメン為ニ約十日以前ニ預メ通知セラレンコトヲ照会スル処アリシガ同回答ニ拠レバ日本軍隊ガ鉄道用地外ニ行軍スルニ当リ貴国官民ガ之ヲ誤解シ紛擾ヲ惹起スルニ至ルハ実ニ遺憾トスル処ニシテ務テ向後貴署ノ希望ニ副フコトニ致スベキモ臨時行軍ハ軍隊教育ノ主旨ニヨリ遽ニ挙行スルモノニシテ一定ノ期日前ニ預告スルコトヲ実行致難キモノ有之若シ斯カル場合ニ会セバ貴国官憲ニ於テ完全ナル方法ヲ講ジ関係地方官民ニ通告シ誤解ヲ生ゼシメズ更ニ行軍ノ預告ハ従来実行セラレタルハ鉄道用地ヲ距ル遠キ地方ヲ以テ限トスルモノニシテ鉄道用地附近ノ行軍ハ予告セザルモノナルヲ声明シ右御了知相成度旨申越アリタリ査スルニ右ノ辦法タル本来患ヲ未然ニ防グノ主旨ニ出デタルモノナリ若シ遽ニ行軍ヲ為スコトアルモ勢責ルニ預告ノコトヲ以テシ難シ以後各該県知事ハ日本軍ノ行動ノ場合ニハ特ニ注意シ直ニ警察ニ命ジ人民ニ曉諭シ誤解セシメザラシメ以テ邦交ヲ重ンジ睦誼ヲ敦フセヨ右布達スルヲ以テ各県知事ハ直ニ右ニ従ヒ剴切出示曉諭シ一般人民ヲシテ知悉セシメ違フ勿レ云々

簡署外交部特派奉天交渉員田　潛

右各県知事ニ命令ス

五〇五　二月十日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛

鄭家屯撤兵問題ニ関シ回訓ノ件

政機密送第一二号

本件ニ関シ客月三十日附機密公第三一号貴信末段御申越ニ係ル鄭家屯駐屯軍隊撤退ノ件ニ就テハ当方ニ於テモ貴官御申出ノ通リ取計フコトニ詮議可致ニ付右様御承知相成度此段申進候也

五〇六　二月二十一日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

蒙古銃器密輸事件及日本軍中国巡警衝突事件ニ関スル中国側回答報告ノ件

別電　同日落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛電報第二三号

右衝突事件解決条項第五ニ関スル中国側承諾ノ文言

第二二号

機密第三一号拙信ニ関シ武器輸送事件ハ予テ御報告ノ通(二)

項合計金十万円ニテ又行軍隊ニ対スル巡警発砲事件第四項迄ハ当方ノ申出ノ通第五項ハ別電ノ意味ニテ承諾スル旨先方ヨリ公文ヲ以テ回答アリタリ

北京ヘ電報ス

（別　電）

二月二十一日落合総領事発加藤外務大臣宛電報

鄭家屯附近衝突事件解決条項第五ニ関スル中国側承諾ノ文言

第二三号

将来再ヒ同様ノ事件発生スルカ如キコトアラハ日本側ニ於テ自ラ適当ナリト認ムル措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルベキヲ以テ支那側ニ於テ叙上ノ事件再発ヲ防止スル様十分手段ヲ施スヘシ

五〇七　二月二十二日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛（電報）

中国側回答ニテ至急解決取計方訓令ノ件

第一二号

貴電第二二号ノ件御申越通ニテ異存ナキニ付至急解決方取計ヒ度シ

右北京ニ転電アリタシ

五〇八　二月二十三日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

蒙古銃器密輸事件及鄭家屯附近衝突事件ニ関スル交渉経過報告ノ件

附属書一　鄭家屯衝突事件解決条項第五ニ関スル日本側修正案

二　大正四年二月二十日附右両事件ニ関スル中国側回答公文

機密第五三号　（二月二十七日接受）

大正四年二月二十三日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

銃器輸送事件及我行軍隊ニ対シ巡警発砲事件ニ関スル件

本件ニ関スル其後ノ成行ニ就テハ客月二十九日附機密公第三一号ヲ以テ詳細及報告置候通ニ候処本月一日本官他ノ要件ヲ以テ巡按使ヲ往訪シタル際張巡按使ヨリ当方申出要求条項ノ修正案ニ関シ本官ノ腹案ヲ求メタルヲ以テ別紙甲号写ノ如キ修正案ヲ差示シ置キタル処超ヘテ同九日往訪シタルニ右修正案ノ漢訳文ヲ示シ其訳文ハ之ニテ可ナルヘキヤ否ヤヲ質シ之レナラバ大体ニ於テ北京政府ヨリ本官ノ申出ニ従ヒ同意スベキ旨命令来タリ居レル次第ニモ有之纏メ得ルコトト考フル旨ヲ語リ尚ホ考量ヲ加ヘタル上何分ノ回答致スベキ旨語リ居リシガ本月十五日本官ハ更ニ田交渉員ヲ訪ヒ本件解決ニ関スル回答方及督促候処田ハ既ニ北京政府ニ於テモ本官申出ニ対シ承認差支ナキ旨訓令来リ居レルヲ以テ不日公文ヲ以テ回答致スベキモ之ニ対シ(一)該事件発生当時拘留セラレタル預備巡警等ノ釈放(二)在鄭家屯駐在ノ日本警察官ノ撤退(三)同地駐屯軍隊ノ撤退ニ関シテハ別個問題トシテ商議ヲ願フ事トスベキモ前ニ本官ニ対シ要請セル通リ同駐屯隊ニ於テ将来再ヒ三江口ニ於ケルガ如キ事件発生セル場合ニ於テ直接現場ニ於テ事件当事者タル支那官民ニ対シ軍隊自ラ拘束ヲ加フルガ如キコトナク当該地方官憲ニ対シ交渉センコトノ三条件ヲ附加スベキコトヲ述ベタルヲ以テ本官ハ其第一条件ノ釈放ニ就テハ本国政府ノ指令ニ従ハサルヘカラサルモ本件解決セバ左程困難ノ問題ニテモ無カルベシ第二ノ警察官云々ニ関シテハ現ニ鄭家屯ニ駐屯セル警察官ハ本来何等本事件ニ関聯スルモノニアラズ本件発生以前ヨリ駐在シツツアルモノニテ従テ之ヲ本件解決ト関聯セシムベキモノニアラズ第三ノ事件発生ノ場合地方官ニ交渉云々ニ付テハ過般既ニ説明セル如ク支那側ノ希望トシテ其筋ニ通シ置キタル次第ナルガ其節述ヘタル如ク苟モ軍隊ニ対シ無礼ノ挙動アランカ当該軍隊ニ於テ直ニ相当ノ措置ヲ執リ或ハ之ニ制裁ヲ加フルコトハ不得已次第ナルベキヲ以テ之ヲ制限セントスルガ如キコトヲ申出スモ承諾ヲ得ルガ如キハ困難ナルベシ尚ホ其筋ヨリ回答アラバ転達スベキモ本件解決ノ場合ニ臨ミ又々如上ノ条件ヲ付セントセラルルガ如キコトハ甚穏ナラズト説キタルニ先方モ再考ノ上然ラバ回答ノ際ニハ斯ルコトヲ一切申サヌコトト致スベシト答ヘ候処同二十日附ヲ以テ拙電第二二同二三号ヲ以テ申進置候通リ別紙乙号写ノ通リ回答致越候ニ付右様御了知相成度尤モ本件金員ノ授受ニ就テハ其ノ期日ヲ決定スベキ様申入候処目下右ニ要スル邦貨買収中ナルモ多額ナル為メ一時ニ調達シ難ク延テ期日ヲ定ムル能ハサルモ不日送付致スヘシト申居候条併セテ御承知置相成度此段及報告候　敬具

（附属書一）

甲号写

将来再ヒ同様ノ事件発生スルガ如キコトアラバ日本側ニ於テ自ラ適当ト認ムル措置ヲ執ルノ不得已ニ至ルヘキヲ以テ支那側ニ於テ如上事件ノ発生ヲ防止スル様充分ノ手段ヲ施スヘシ

（附属書二）

乙號写

照會外字八號

大中華民國簡署外交部特派奉天交涉員田　爲照會事關於没收武器暨昌圖預警爾案迭經會商兩案一併議結所有議結事宜開列於復相應照會貴總領事查照並希見復是荷此照會

大日本駐奉總領事落合

計開

没收武器案内事宜

㈠武器代價七萬九千九百圓

㈡撫邨吊慰金貳萬壹百圓

昌圖預警案内事宜

㈠嚴重處罰暴行下手人之巡警及土民該巡警之直屬長官卽預備巡警鄉長（孫佐臣）直免官

㈡嚴重懲戒該巡警及預備巡警鄉長之直屬長官卽預備巡警總長並嚴重戒飭其直屬長官之

關係縣知事

㈢該關係縣知事對於管内一般人民須出示曉諭將來優遇日本官民

㈣當時日本陸軍歩兵特務曹長佐藤與四郎右胸部受貫通槍傷陸軍歩兵二等卒由井末三郎右胸部受盲貫槍傷對此宜出慰籍金壹萬貳千圓（佐藤特務曹長九千圓由井二等卒二千圓）

㈤將來如再發生同様事件至日本方面不得已宜執自己所認適當之措置至中國方面宜施手段防止如上之事件不再發生

中華民國四年二月二十日

（右和訳文）

以書翰致啓上候陳者武器没収及ビ昌図預備巡警ノ両件ニ関シテハ度々会見商議候処有之両件ヲ同時ニ解決スルコトト致セシ次第ナル処茲ニ総テノ解決条項ヲ左ニ列記及御照会候条何分ノ儀御回答相成度此段照会得貴意候　敬具

記

武器没収事件ニ関スル事項

㈠武器代価七万九千九百円

㈡撫邨吊慰金二万〇壹百円

昌図預備巡警事件ニ関スル事項

㈠暴行下手人タル巡警及土民ヲ厳重処罰シ該巡警ノ直属長官即チ預備巡郷長（孫佐臣）ハ免官スヘシ

㈡該巡警総長ヲ厳重懲戒シ並ニ其ノ直属長官タル関係県知事ヲ厳重戒飭ス

㈢該関係県知事ヨリ管内一般人民ニ対シ将来日本官民ヲ優遇スルコトヲ出示暁諭スヘシ

㈣当時日本陸軍歩兵特務曹長佐藤与四郎ハ右胸部ニ貫通銃創ヲ受ケ陸軍歩兵二等卒由井末三郎ハ右胸部ニ盲貫銃創ヲ受ケタリ此ニ対シ慰藉料一万二千円（佐藤特務曹長九千円由井二等卒三千円）ヲ出スヘシ

㈤将来再ヒ同様ノ事件発生スルガ如キコトアラバ日本側ニ於テ自ラ適当ト認ムル措置ヲ執ル不得已ニ至ルベキヲ以テ支那側ニ於テ如上事件ノ発生ヲ防止スル様充分ノ手段ヲ施スヘシ

五〇九　二月二十五日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛（電報）

拿捕巡警ハ中国側ヘ引渡差支ナキヤ問合ノ件

第一三号

往電第一二号ニ関シ

客年在鉄嶺領事宛往電第一〇[註]号所載ノ拿捕巡警ハ此際支那側ニ引渡シ差支ナキヤ否ヤ酒勾領事代理ヨリ請訓致越シタル処右差支ナキ程度迄本件解決方進捗シ居ル次第ナルヤ回電アリタシ

註　日本外交文書大正三年第二冊一二九文書

五一〇　二月二十五日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

拿捕巡警ハ中国側ヘ引渡シ度キ旨回答ノ件

第二五号

貴電第一三号ニ関シ先方ノ公文ニ対シ承諾ノ旨回答ヲ発スルト共ニ先方ヨリハ直ニ解決条件中ニ挙ケタル金額ヲ当方ニ仕払フコトニ本日話合ヲ附ケ尚其他ノ条件モ成ルヘク速ニ実行セシムル積ナリ鉄嶺ニ於ケル拿捕巡警ハ最早支那側ニ引渡サルル様致シタシ

五一一　二月二十六日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛（電報）

蒙古銃器密輸及行軍隊衝突両事件解決条件ノ

金額受領ノ件

第二六号

往電第二二号ニ関シ先方ノ回答ヲ承諾スル旨通知シ置キタル結果今二十六日金十一万二千円交渉署ヨリ送来レリ

五一二　二月二十六日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

蒙古銃器密輸事件及鄭家屯衝突事件ニ関シ我方承諾ヲ回答ノ旨報告ノ件

附属書　右両事件ニ関スル二月二十五日附田交渉員宛回答文

公第四二号　（三月三日接受）

大正四年二月二十六日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

銃器密輸送事件並ニ我軍隊ニ対シ巡警発砲事件ニ関スル件

本件ニ関シ本月二十日田交渉員ヨリ来信ノ義ニ付テハ本月二十二日附機密公第五三号ヲ以テ稟報ニ及ヒ置キ候処同二十二日発貴電第一二号御訓令相成候ニ就テハ同二十五日附ヲ以テ別紙写ノ通リ田交渉員宛回答致置候条右御参考迄及稟報候　敬具

（附属書）

別紙写

以書翰致啓上候陳者客年十一月十二日本官ヨリ張巡按使ニ手交シタル口上書ヲ以テ明治四十五年六月鄭家屯北方蒙古地帯内ニ於テ呉統領部下ノ巡防隊カ本邦人ニ対シ不当ノ鎮圧手段ヲ執リ数多ノ死傷者及行衛不明者ヲ生セシメ死傷者ヲ遇スルニ惨忍ヲ極メタルノミナラズ輸送ニ係ル武器ヲ没収シタル事件ニ関シ当時ヨリ懸案トナリタル善後ノ要求条件ニ付解決方提議シ又同日附公文第六八号同巡按使宛公信ヲ以テ客年八月鉄嶺ヨリ鄭家屯方面ニ行軍シタル我軍隊ニ対シ八面城附近ニ於テ貴邦巡警及人民カ射撃ヲ加ヘタル事件ニ関シ帝国政府ノ訓令ニヨリ六ケ条ノ要求事項ヲ提議シ置キ爾後此ノ両種ノ交渉案件ニ付数回巡按使及貴官ト会商ノ次第有之候処本月二十日附照会外字八号貴信ヲ以テ右両件ノ照会ニ対シ御回答ノ次第有之即明治四十五年六月鄭家屯ノ北方ニ於テ起リタル事件ニ就テハ貴方ヨリ武器代価トシテ金七万九千九百円撫卹吊慰料トシテ二万〇百円合計金十万円ヲ当方ニ支払フ事又昨年八月鉄嶺行軍部隊ニ対シ巡警及人民ノ発砲セル事件ニ対スル当方提出ノ六箇要求条項ニ就テハ該条項第一乃至第四ハ当方提議ノ通第五ハ字句ヲ修正ノ上御承諾ノ旨回答有之閲悉候右御回答ノ次第ハ当方ニ於テ之ヲ承諾シ昨年八月ノ事件ニ対スル要求条項第六即チ洮遼鎮守使呉俊陞ヲ本件責任者トシテ免官又ハ更迭セシムルコトハ之ヲ他日ノ懸案ト為スコトトシ本両案件ハ之ヲ以テ解決トスルコトニ帝国政府ノ認可ヲ得候ニ付右様御了知相成度尚ホ前記貴信ヲ以テ御成示ノ次第ハ速ニ御実行ノ上当方ヘ御通報相成候様致度此段回答得貴意候　敬具

五一三　三月一日　小池政務局長ヨリ柴陸軍省軍務局長宛

蒙古銃器密輸事件及日本軍中国巡警衝突事件ノ解決ニ付通報ノ件

機密送第四二号

鄭家屯北方武器輸送事件並鉄嶺行軍隊ニ対スル巡警ノ発砲事件解決ニ関スル件

本件ニ関シ二月十日附政機密合送第二三号ヲ以テ及通報置候処今般在奉天落合総領事ヨリノ電報ニ依レハ予テ御協議済ノ通リ武器輸送事件ハ武器売渡代金並死傷者及行衛不明者ニ対スル吊慰金合計金十万円ニテ又行軍隊ニ対スル巡警発砲事件ハ第一項乃至第四項ハ我方申出通リ第五項ハ「将来再ヒ同様ノ事件発生スルカ如キコトアラハ日本側ニ於テ自ラ適当ナリト認ムル措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ以テ支那側ニ於テ叙上ノ事件再発ヲ防止スル様十分手段ヲ施スヘシ」トノ意味トスルコトニテ夫々解決ヲ告ケ本月二十六日前記金十万円行軍隊ニ対スル巡警発砲事件負傷者慰藉金一万二千円合計金十一万二千円ヲ支那側ヨリ受領シタル趣ニ付右様御承知相成度将又右金一万二千円ハ本日当省掛官ヨリ貴官掛官ニ協議致サセ置候通リ落合総領事ヨリ関東都督経由本人ニ送付ノコトニ相成居候条是亦右様御含置相成度此段申進候也

追テ武器輸送事件解決条件トシテ受領シタル金十万円ノ措置方ニ関シテハ従来ノ行懸上当省ヨリ参謀本部ニ申入レ置キタル次第モ有之候ニ付右様御承知置相成度此段申添候也

五一四　四月十七日　在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

鄭家屯駐屯日本軍隊ノ民屋強徴ニ関シ外交部申出ノ件

附属書　右ニ関スル外交部節略

機密第一一一号　（四月二十四日接受）

大正四年四月十七日

在支那

特命全権公使　日　置　益（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

外交部ニ於テ鄭家屯駐屯ノ我軍隊カ同地世合号ノ家屋五十余間ヲ一ケ月二十余元ノ借料ニテ強徴ノ上兵舎ニ充テタル為同号主靳茂年ハ之ニ抗争セントセルモ同地商会ニ於テ之ヲ勧止シ靳ノ損害ニ対シテハ商会ヨリ洋銀一万五千元ヲ拠集シテ同人ニ交附シタル由ナルカ靳及一般商人ノ忿怒甚シク又日本軍ハ同家屋ニ砲塁其他ノ設備ヲナシツツアリトノ旨報告ニ接シタル趣ニテ四月十四日部員ヲ当館ニ派遣シ別紙写ノ通覚書ヲ提出致候ニ付右事実ノ有無御取調ノ上外交部ニ対スル回答方ニ関シ何分ノ義御回示相成度此段報告申進候也

写送附先　奉天総領事

（附属書）

節畧

據報告稱駐遼日軍隊長早坂德四郎將原住世合號之西院又强迫侵佔共計房屋五十餘間月給租洋二十餘元故該號執事靳茂年甚屬忿怒時有與日人死鬬之志當經會竭力勸解並擬出變通辦法令遼源街大小商戸湊集東鐵十萬吊約合小洋一萬五千元供給與世合號執事靳茂年以作損失之資該執事雖得此利心猶忿忿因每年經商所獲之利益不止萬餘元現在遼源街大小商家出此額外之款心皆不平是以怨聲載道該日軍自佔居此房屋之後視爲已有於是添築房屋興修壕壘種種設備不遺餘力各等語

五一五　四月三十日　加藤外務大臣ヨリ岡陸軍大臣宛

鄭家屯駐屯日本軍隊ノ民屋強徴ニ関シ事情取調回報方照会ノ件

政機密送第八六号

今般在支日置公使ヨリ鄭家屯駐屯ノ我カ軍隊カ同地ニ於ケル民屋ヲ強徴シタル件ニ関シ支那外交部ヨリ申出有之タル趣ヲ以テ別紙(註)写ノ通申越候間同公使ヘ回訓ノ必要有之候ニ付本件事情御取調ノ上何分ノ義至急御回報相成度此段及照会候也

註　別紙写前掲ニ付省略ス

五一六　五月三日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

日本軍隊兵舎ニ湖広会館使用並露国武官苦情申出ニ関スル件

附属書　一九一五年四月十八日附露国武官輔佐官陸軍二等大尉「スピリドウキッチ」ヨリ在奉天露国総領事宛書翰和訳文

公第九一号　（五月十日接受）

大正四年五月六日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

日本軍隊ノ兵舎用家屋ニ関スル件

先般当地ニ帝国軍隊臨時増員セラレタル結果兵員収容ノ為メ種々臨時ノ措置ヲ施サレ先年城内ニ於テ居留民会借受ケ軍隊宿舎ニ宛テタルコトアル家屋弐ケ所ニ現役兵ノ一部ヲ入レタル処早速支那側ヨリ苦情出デタル次第ハ三月二十四日附往電第三六号ヲ以テ報告ノ次第ニ有之候処其後大部分ノ新来軍隊ハ狭隘ナル在来軍隊宿舎ニ臨時多少ノ手入ヲ為シ之ニ収容セラレアリタル処追々暖気ニ向フト共ニ衛生上此儘ニ為シ置難シトノ話モアリタルガ先日来兵ノ宿舎ニ宛ツベキ適当ノ家屋捜査中ナリシ由間接ニ報告ヲ得居候処其内当総領事館ヨリ近ク露国総領事館ノ筋向ニ兼テヨリ湖広会館ト称スル広大ナル二階建煉瓦造ノ家屋アリ客年九月ヨリ本邦人石本権四郎ナルモノ支那人ヨリ借用シテ同人ノ経営ニ係ル和興公司ナルモノノ標札ヲ掲ケ居候処之ヲ兵舎用トシテ使用スルコトニ定メラレタル趣ニテ過日来種々手入ノ模様ナリシカ其節石本ノ談話ニヨレバ該家屋借用ニツキ所有支那人ト取結ヒタル契約中ニハ転貸禁止ノ条項ナキ旨申居リタルニ付丁度其頃交渉署員当館ニ来リ日本軍隊不日湖広会館ニ入ルトノ風説アルカ右ハ事実ナルヤ若シ事実トセバ支那側ニ於テハ甚迷惑スル次第ナリト述ヘタルコトアルニ対シ本官ハ軍隊カ同館ニ入ルヤ否ヤハ未ダ通報ヲ得サ

ル次第ナルガ果シテ同館ニ入ルトスルモ現在ノ借家主タル石本ガ承諾ノ上ナラバ本官ニ於テ如何共取計ヒ難カルベキ旨館員ヲシテ回答セシメ置キタルコトアリ其後該交渉署員ハ再ビ当館ニ来リ支那側ニ於テハ日本軍隊ガ同館ニ来ルコトヲ拒否スルノ趣意ニアラサルモ元来同会館ハ名ノ通リ湖広人ノ会館トシテ使用セラルルモノニシテ所有者ハ数多ノ人ニ渉リ日本軍隊ノ宿舎ニ宛テラルル如キコトアレバ所有主ノ間ニ種々物議ヲ生ズベク甚ダ迷惑スル次第ナリト申述ベタルモ本官ハ前同様ノ話ヲ為スノ外致方無シト答ヘタル次第ニ有之其後石本ノ来談スル処ニヨレバ同人ガ家主ト結ビタル契約ニハ同家ヲ他人ニ転貸スルコトヲ禁シタルコト無カリシト思料シタルモ本官ノ注意ニヨリ契約文ヲ調査シタルニ第一ケ条ニ於テ他人ヘノ転貸ヲ禁シ在リ甚タ疎忽ノ措置ヲ為シタリ如何ニスヘキヤト申出デタルニ付本官ハ同人ニ於テ既ニ軍隊ニ提供シタル以上ハ今変更スルコトハ困難ナランガ支那側ニ対シテノ責任ハ同人ニ於テ之ヲ負ハザルベカラザル旨申聞置候其節同人ノ話ニヨレバ家主側ノ代理者ニ於テモ同家屋ヲ司令部トカ将校宿舎トカニ用ヒラルルナラバ別段苦情無カルベキモ兵卒ヲ多数入ルルコトハ甚

困ルトカ申居リタル由ニ有之候同館ニハ本月二日ヨリ大隊本部及二個中隊ノ兵ヲ入ルルコトト相成候聞ク処ニヨレバ此レカ為同会館管理ノ地位ニ在ル支那人ハ支那官憲ノ為逮捕投獄セラレタル由ニ有之候

湖広会館ヲ日本軍隊ニ於テ使用スルニ関スル支那側ノ苦情並ニ其成行ハ以上ノ通リニ有之候処右使用ノタメ軍隊側ニ於テ其構内ニ炊事場浴場洗濯場及干場ヲ新築致候タメ不計モ亦同館ト隣接家屋ニ住セル露国武官ヨリ苦情ヲ持込来リ候即チ右新築建物ハ別紙甲号ノ通隣家ナル在支那露国陸軍武官補佐官二等大尉「スピリドウヰツチ」ノ住宅ト接近セル処同人ハ前記炊事場等建造物ノ新築セラルルヲ見ルヤ兵舎用ナリトハ知リ得ル様モ無ク之ヲ以テ一大洗濯業開設ノ準備ナルモノノ如ク解シタルモノト見エ一昨々日本官ヲ訪問シ右ノ次第ヲ述ヘ且右洗濯場用家屋ハ丈低キ烟筒ノ備付ケアリテ其煙ハ自宅内ニ入リ来リ且悪臭汚水ノ発散モ自然尠カラサルヘキニツキ隣家トシテノ迷惑甚大ナルニヨリ至急右様ノ事態ヲ取除ク様命令アリタキ旨申聞越エテ一昨日在当地露国総領事ハ館員「ドーリヤ」ヲ本館ニ派遣シテ別紙乙号写ノ如キ「スピリトウヰツチ」ノ申請書露文原文写ヲ提示シ同国総領事ニ於テモ該申請書中ノ苦情ヲ尤モナリト思考スルニツキ至急右建造物ノ撤廃ヲ取計ハレタキ旨申込ミ来リ且ツ其節「ドーリヤ」ノ語ル処ニヨレバ露国総領事ハ本件ノ如ク商埠地内ニ於テ他人ノ大迷惑トナル施設行ハルルニ於テハ之ヲ在当地ノ領事国会議ニ上ス必要アルヤモ計ラレスト申居候間本官ハ如斯事件ヲ領事会議ニ持出サルルコトハ露国総領事ノ随意ト申スノ外ナキモ本官ハ甚了解ニ苦ム次第ナリ本官トシテハ事実「スピリトウヰツチ」大尉ノ迷惑トセラルル処ヲ除去シ得ラルル方法無キヤ昨日来同大尉自ラ直接ノ申込アリタルニヨリ其筋ト往復シ居ル次第ナリト説明シタル処「ドーリヤ」ハ其旨総領事ニモ復命スヘキ由答ヘ候此前後本官ハ警察署長ヲシテ実地調査ヲ為サシメタル上当地現在ノ衛戍司令官タル独立守備隊第三大隊長ニ署長及館員ヲ派シテ本件ニ付露国武官ノ迷惑トナラサル様措置方ニツキ協議セシメタル結果軍隊側ニ於テモ最早ヤ兵員収容期日切迫ノ今日炊事場等ヲ移転スルガ如キコトハ行ハレ難キモ煙筒ハ更ニ之ヲ高メ又「スピリドウヰツチ」住宅トノ境界墻壁上ニハ可成高キ目隠塀ヲ作リ且ツ汚水モ出来得ル限リ隣家ノ迷惑トナラサル方法（即チ場合ニヨリテハ「スピリドウヰツチ」住宅前ニハ木箱ヲ設ケテ其用ニ供ス）ヲ講スヘキニツキ右様露国側ニ回答アリタシトノコトナリシニヨリ本官ハ露国総領事ヲ訪問シ右ノ次第ヲ申入レ候処同総領事ハ其旨「スピリドウヰツチ」ニ通知スヘキ由申居候右会談ノ節同総領事ハ今回此方面ニ日本兵ヲ入レラルルハ何故ナリヤト問ヒタルニ付本官ハ宿舎ノ必要上日本人ノ借受居ル家屋ヲ用ヰタルナリト答ヘタル処露国総領事ハ Foreign Concession ニ入ルルヤト問ヒタルニツキ本官自ラ領事館護衛ノ名ノ下ニ拾数名ノ「コサツク」兵ヲ所謂 Foreign Concession ニ駐在セシメ居レル露国総領事ノ言トシテ甚不穏当ナリト認メ之ニ答ヘントセル処同総領事ハ俄ニ語ヲ転シ本官ノ回答ヲ待タスシテ急ニ近頃満洲ニ於ケル独逸人最近ノ行動如何ナド申出候テ右ノ質問ハ取消ノ如キ姿ト相成候尚ホ本官ハ早速更ニ守備隊長ニ前諸工事ニ着手方依頼致候処守備隊長ハ右ハ既ニ着手セルノミナラズ本件ニツキテ同隊長ヨリ歩兵第五十四聯隊長ニ事情通報ノ上湖広会館ニ収容セラレタル兵士ニ対シ喧騒、臭気発散及隣家無断立入等ハ堅ク慎ムヘキ旨訓令方依頼致置候趣回答有之候

本件ハ未タ落着セルモノトモ申シ難キ次第ニ有之他ノ方面ヨリ物議ノ起ルコト絶対ニ無之ヲ保シ難キ模様ニツキ為念此段及稟申候　敬具

本信写送附先　在支公使
関東都督

註　別紙甲号及同乙号露文ヲ省略ス

（附属書）

在支那露国陸軍武官輔佐官陸軍二等大尉「スピリドウィッチ」ヨリ在奉天露国総領事ニ宛タル書翰和訳文

本官ガ三ケ年以来開埠局ヨリ借受ケ居レルカ家屋ニ隣接スル湖広会館所有地域内ノ西方ニ於テ日本人ガ本官ノ家屋ノ壁ニ接近シテ洗濯所ヲ設置セリ

開埠地ニ於テ斯ル事業ヲ開始セラレテハ不潔ナル衣類ハ多ク堆積スヘク又多額ノ汚水ヲ流出スヘク此汚水ハ日本人ノ送リタル小溝ヲ通シ本官ノ門前ヲ流レテ本官家屋ノ西方ニ於ケル窪地ニ溜ルコトトナルヲ以テ健康上著シキ危険アリ

右ノ外日本人ハ又二日以前ヨリ同地点ニ建物ヲ築ケリ不潔ノ衣類ヲ蒸シ又之ヲ洗濯スル為ニ用ヒナシ此等ノ建物亦本官ノ家屋ニ密接シ其ノ煙筒ハ本官家屋ノ窓ニ対シ設ケラレ在リ斯ノ如キ次第ナルヲ以テ本官ハ前年本官ノ家屋ニ住居スルコト全然不可能ナルニ至レリ本官ハ此家屋ニ三ケ年ノ間手入ヲ為シ為メニ巨額ノ出費ヲ為シタルナリ加之本官住宅ノ隣家ニハ常ニ半裸体ノ日本兵士集合シ騒々敷又垣ヲ隔テテ本官家屋ノ窓ヲ覗ク等ノコトアリ而カモ昨日ハ本官ノ不在中約弐拾名ノ兵士ハ本官召使ノ者ノ拒絶シタルニ係ハラズ本官ノ邸内ニ入リ来リ強テ本官植物蓄蔵用温室ニ入リ番犬ヲ傷害セリ

依テ相当官憲ニ御照会ノ上斯ノ如ク日本人ニヨリ本官ノ利益ガ損害セラルルコトヲ防遏スル様相当措置ヲ執ラレンコトヲ請フ

若シ前述ノ如キ事態継続センカ本官ハ現在ノ邸宅ヲ去ルノ外無之而カモ奉天ニハ他ニ相当ノ家屋無キナリ

一千九百十五年四月十八日

五一七　五月十八日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

日本軍隊ノ奉天小西辺門外駐屯ニ関シ露国武官輔佐官苦情申出ノ件

附属書　五月十六日附露国武官輔佐官「スピリドウィッチ」大尉来翰和訳文

同右件

機密公第一一八号　（五月二十四日接受）

大正四年五月十八日

在奉天
総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

日本軍隊ノ奉天小西辺門外駐屯ニ関スル件

日本軍隊ノ小西辺門外屯営ニ関シ建造物其他ニ付露国側ヨリ苦情申出ノ次第ハ本月三日附公第九一号後段ヲ以テ申進置タル義有之候処其後十一日露国総領事来訪ノ上本件兵舎内ニアル軍隊ハ毎日調練ノ結果喧噪甚シキノミナラズ構内ニ於テ小鳥ヲ銃撃シタルコトモアリ迷惑甚シキニ付此後余リニ騒カシカラヌ様取計方申出候ニ本官ハ軍隊ノ屯営スル以上訓練ヲナスコトハ必要ト被認ニヨリ此点ハ致方ナシト考フルモ可成喧噪ノコトハ無之様希望ノ次第ハ其筋ヘ取次置ク可シト答ヘ其趣衛戍司令官ヘ申伝ヘ旅団司令部ニ於テモ其意ヲ了シタル次第ニ有之候処本月十六日前顕公第九一号所載ノ「スピリドウィツチ」大尉ハ別紙（註）写ノ如キ書面ヲ送リ来リ候書信中礼ヲ失スルカ如キ文句アルモ屯営軍隊ノ喇叭練習ハ随分喧シクモ可有之コトト認メ且同大尉モ病気ナリトノ事ナルニ付軍隊ノ勤務上ノコトニ差支無之限リ静粛ニ為ス様佐藤旅団長ヘ面談ノ上申伝ヘ候処同旅団長モ出来得ル限リ静謐ヲ保タシメ尚ホ喇叭ノ練習ハ同所附近ニテハ行ハサル様取計フヘシトノコトナリシニヨリ十七日露国総領事ニ面談シ右ノ趣「スピリドウィツチ」ニ伝達方申入タル処同総領事ハ前顕公第九一号所載ノ言ヲ繰返シ元来各国商埠地タル区域内ニ外国軍隊ノ屯営スルカ如キ不得已トスルモ軍隊トシテノ行動ニ出デズ単ニ「シヴイル」トシテ居留スルモノナラザルベカラズ然ルニ日本軍隊ハ屯営内ニ於テ調練スルノミカ道路ヲモ練兵ノ用ニ供シ現ニ露国総領事館ノ門前ニ於テモ喧シク号令ヲ掛ケ演習ヲ行ヘリ斯ノ如キハ穏ナラザル旨申出デタルニヨリ本官ハ商埠地ニ外国軍隊ノ駐屯スルコトハ例ナキニアラズ又駐屯スル以上調練其他都合上必要アレバ之ヲ行ハザルベカラズ斯ノ如キコトハ露国ノ士官タル「スピリドウィツチ」大尉ハ御承知ノ筈ナリト説示シ尚ホ小西辺門外駐在ノ軍隊モ久シカラズシテ他ニ移転スルコトトナルベキニヨリ日本軍隊側ニテモ出来

得ル限リ静謐ニ為ス以上ソレニテ可ナラズヤト申述ベタル処同総領事ハ移転近々ノ間ナラバ短時日ノ間練兵ノ必要モ無之ルベキニヨリ其間練兵ヲ見合セ呉ルル様取計ハレ間敷哉トノ申出アリタルニヨリ本官ハ斯ノ如キハ本官ノ取扱ヒ得ル限ニアラズト申候処露国総領事ハ尚ホ今後ノ模様ヲ見ルベシト申居候ニ付本官ハ其儘引取来候本件成行右ノ如ク殊ニ又同所屯営ノ撤廃モ近々ナル由承知致候ニ就テハ今後更ニ彼方ヨリ問題ヲ持出スガ如キコト有之間敷トハ存候得共右為念稟報申進候　敬具

尚ホ其後露国総領事館員来訪ノ節聞ク処ニヨレバ「スピリドウィツチ」大尉ハ神経亢奮頗ル気六ケ敷相成居レリトノコトニ有之候

本信写送附先　在支公使
関東都督府

註　別紙写露文省略ス

（附属書）

「スピリドウキツチ」大尉来翰和訳文

予ハ昨日以来病蓐ニ在リ今朝五時頃ヨリ日本軍隊ハ喇叭ヲ吹キ立テタリ予ハ最早忍耐スル能ハズ予カ露国総領事ニ要求シタルニ対シ総領事ノ答ヘ来リタル処ニヨレバ予ノ隣接地ニ日本兵営ノ在ルコトニヨリ予カ迷惑スル如キ喧声無之様貴下ニ於テ尽力セラルヘシトノコトナリシガ未ダ何等施サレタルコト無キノミナラズ予ノ家ニ接シテ又一ノ烟突ヲ設ケラレ又一日ノ内殆ント十二時間ハ喇叭ヲ吹キ立テラル予ハ腹蔵無ク申サン斯ノ如キハ奇怪ノ極ナリ就テハ再ヒ日本軍隊ノ当局者ニ右ノ旨ヲ伝ヘラレ至急相当ノ措置ヲ施サルル様取計ハレタシ若シ日本軍隊ニ於テ何等措置セラレサルナラバ其旨公文ニテ回答アリタシ然ラバ予ハ予ノ住宅ヲ捨テ之ニ対シ賠償ヲ要求スルノ已ムヲ得ザルニ至ルヘシ

五月十六日

五一八　五月二十二日　加藤外務大臣ヨリ在中国日置公使宛

鄭家屯駐屯日本軍隊ノ民屋強徴ニ関シ外交部ヘノ回答方回訓ノ件

附属書　五月十八日附岡陸軍大臣ヨリ加藤外務大臣宛陸軍省送達欧発第八六二号
鄭家屯駐屯軍隊ノ民家強徴ニ関シ回答ノ件

政機密送第八四号

本件ニ関シ客月十七日附機密第一一一号貴信ヲ以テ支那側覚書相添御申越ノ次第有之候ニ付陸軍省ヘ及照会置候処今般同省ヨリ別紙写ノ通回答有之右回答ニ依レハ支那側申出ノ事実ハ全然真相ヲ誤リ居リ且ツ鄭家屯ニ於ケル日支両国官民ノ交情ハ極メテ円満ニシテ何等疎隔ナシトノコトニ有之候ニ付右ノ趣外交部ヘ回答方可然御取計相成度此段回答申進候也

（附属書）

陸軍省送達欧発第八六二号

鄭家屯駐屯軍隊ノ民家強徴ニ関スル件回答

大正四年五月十八日

陸軍大臣　岡市之助

外務大臣男爵　加藤高明殿

四月三十日附政機密送第八六号ヲ以テ御照会相成候本件ニ関シ鄭家屯駐屯ノ我軍隊カ同地ニ於ケル民屋ヲ徴用シアルハ事実ニ候ヘ共右徴用ハ呉統領ノ尽力ト知県家主ノ快諾ニ依リ備用設備シタルコトハ別紙関東都督府陸軍参謀長ヨリ回答ノ通ニ有之又家屋ノ周囲ニ塹壕等ノ構築セルハ単ニ軍隊教育演習ノ目的ニ有之候御承知相成度候也

（別紙）

関東都督府陸軍参謀長ヨリノ回答写

昨三年鄭家屯事件ノ結果我軍隊ノ一部ヲ同地ニ駐屯セシムルコトトナリシヲ以テ該派遣隊長河瀬大尉ハ之カ宿舎借用ノ為呉統領、知県及家主ト協議シ呉統領ノ尽力ト知県家主ノ快諾ニ依リ一ケ月三十円ニテ借用セリ而シテ其後派遣隊長相浦大尉ニ至リ該家屋ヲ過広ナリトシ中央ニ隔障的土塁ヲ設ケテ折半セシメ又表入口ニモ之ヲ設ケタリ（註　倉略）（要図参照）尚最初ノ派遣隊長カ該家屋ヲ借用スルニ際シテハ同地商務会ハ其所有主ニ対シ金壱万五千元ヲ与フルノ約定ヲ以テ立退カシメタルモノナリト云フ然ルニ現派遣隊長早坂大尉ヲ独立守備隊ヨリ派遣スルヤ該大尉ハ倉庫等ヲ設置スル為頗ル狭隘ヲ感シタルヲ以テ之ヲ知県ニ交渉シ其認諾ヲ得テ更ニ該家屋ノ全部ヲ使用シ中央ニ設ケタル土塁ハ之ヲ除去シタリ

故ニ支那外交部ヨリ日置公使ニ申シ出テタル件ハ全ク事実相違シ居ルモノト認ム又同地ニ於ケル日支両国官民ノ交情ハ極メテ円満ニシテ何等疎隔ナシ

五一九　五月二十二日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

鄭家屯駐屯軍隊撤退ニ関シ意見上申ノ件

機密公第一二三号　（五月二十九日接受）

大正四年五月二十二日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

鄭家屯駐屯軍隊撤退ニ関スル件

本件我軍撤退ノ義ニ関シテハ鄭家屯銃器密輸送事件並ニ鐵嶺行軍隊ニ対スル巡警発砲事件善後方法交渉ノ際支那側ヨリ申出シタルモ我方ヨリハ日本側ニ於テ駐屯ノ必要無之ト認ムル時期ニ至ラバ撤退スヘシト答ヘ支那側ニ於テハ頻リニ同時解決ヲ迫リタルモ結局之ヲ別問題トスルコトヲ諾シ遂ニ前記両件ノ交渉ハ撤兵ニ関係ナク解決ヲ見タル次第ハ御承知ノ通リニ有之猶撤兵問題ニ関スル本官意見ハ本年一月三十日附機密公第三一号ヲ以テ及稟申置タル処右ニ対シ同年二月十日附政機密送第一二号貴信ヲ以テ右様取計フコトニ御詮議相成ルヘキ旨御回訓ニ接シタル次第ニ有之候其後北京交渉ニ伴フ国交ノ危機ニ瀕シタル等ノ事情ニヨリ本件モ其儘ニ相成居候処一昨二十二日田交渉署長来訪ノ上再ヒ本件ヲ持出シ過般本件撤兵ノコトニ付北京ヨリ再三ノ訓令モアリ日本側ニ於テ本件実行ノ詮議ヲ乞ヒタク存シ居リタルモ北京ニ於ケル交渉ノ結果時局稍ヤ緊張ノ感アリタルヲ以テ今日迄申出方見合セ置キタルカ北京交渉モ円満ナル解決ヲ遂ケタルコトナレバ可成速ニ本件ヲ解決致シタキ存念ナルヲ以テ本官ノ尽力ヲ乞フ旨申出候依テ本官ハ鄭家屯駐屯ノ我軍隊ハ当時本官ノ説明シタルカ如ク駐在ヲ不必要ナリト認ムルニ至ラバ之ヲ撤退スベキ次第ナルガ其ノ時期及方法等ニ就テハ引続キ考究致シ居レリ今ヤ北京ノ交渉一段落ヲ告ケ満蒙ニ於ケル我地位モ従来トハ異リタルモノト思考セラルルニ就テハ本問題モ多少諸種事情ノ異リタルコトヲ考慮ニ加ヘテ研究セサルヘカラズ就テハ交渉署長申出ノ支那側希望ノ次第ハ一応其筋ヘ稟申ノ上訓令ヲ請フコトトスヘキ旨答ヘ置候然ル処本件軍隊駐屯ノ義ハ前顕機密公第三一号拙信稟申ノ通リ元々臨機ノ措置ニシテ同地方ニ不穏ノ模様無キ限リ撤兵ヲ拒ムノ理由モ薄弱ナルヤニ思考セラルル処是迄ハ事実ニ止マリシ同地方本邦人居住営業ノコトモ北京協商ニヨリ公然之ヲ行ヒ得ルコトト相成リタルヘクト思考セラルル次第ナレバ本邦人同地居住ノコトヲ実力庇護スルカ為駐兵スルコトハ絶体ノ必要ト云ヒ難キ次第ト相成タルモ又一面同地方ニハ現ニ多数ノ日本人居住シ今後益々其数ヲ加フルノ勢ニ有之候処此現象ハ駐屯兵ノ在ル為ナルコト其ノ重ナル原因ニシテ呉俊陞始メ地方官憲ハ軍隊ヲ憚リテ百事隠忍ヲ勉メ事無キコトヲ主ト致シ居リ候結果在邦居住民モ随分我儘ノ挙動アルモノノ如ク一朝駐屯兵ノ撤退スル暁ニハ著シキ影響ヲ蒙ムルヘキハ勿論ニシテ支那側ノ圧迫モ漸次加ハルニ至ルヘクト予想セラルルニ就テハ其レガ為同地方ニ漸ク地歩ヲ占メントスル本邦人ノ位置ニ余リ不利益ナル影響ヲ来サシメサル様相当ニ之ヲ保護スルノ方法ヲ講スルコト必要ト認メラルル次第ニ有之候条此等ノ方法ヲ設ケタル上ニ於テ撤兵ヲ行ハレ候コト可然歟ト被存候其方法ニ就テハ第一ニ満鉄沿線ト同地トノ交通機関ヲ整備スルコト可然ト存候カ当該交通機関ニ就テハ先年北京ニ於テ満蒙鉄道予定線ノ一トシテ協定済ノコトニモ有之又満鉄其他一般ニ於テモ鄭家屯迄ハ急設ヲ希望致シ居リ且鄭家屯迄ノ枝線トスレバ工事モ困難ナラズ収支相償フハ勿論利益モ充分可有之ト認メラレ候ニ付此右鉄道敷設ノ実行期限ヲ定メ早晩必ス事実ニ現ハルル様致シタク次ニ同地方ニ従来鉄嶺領事館ヨリ巡査一両名駐在リ居リタル処支那官憲ハ常ニ之ニ対シ抗議ヲ試ミ居リ軍隊撤退ノコトヲ別問題ト為シタル際スラ巡査ノ撤退ヲ迫リタルコトアル次第ナルカ我方居住民ノ保護上警官ノ同地方駐在ハ必要ナル次第ニ有之尚又北京交渉ニ於テ内地警察ノ問題ハ支那側ノ同意ナカリシヤニ承知致居候ニ就テハ例令形式上当分トスルモ警察官ノ駐在ハ之ヲ継続セシメ度シト存候右両件ハ撤兵ニ伴フ条件トシテ差当リ本官ノ心附タル儘ヲ挙ケタル次第ナル処鉄道敷設ノ如キ之ヲ撤兵問題ニ関聯セシムルコト如何アルヘキヤト思ハレサルニモアラズ又之ヲ提議シテ其解決ヲ見サル間撤兵ヲ実行セストナレバ或ハ随分長期ニ渉リ駐兵スルコトト相成ルヘキカトモ想像セラレ候ニ就テハ其辺御詮議相成タル上本件措置方ニ付何分ノ義御訓令置相成候様致度此段及稟申候　敬具

五二〇　六月三日　加藤外務大臣ヨリ在奉天落合総領事宛

鄭家屯駐屯軍隊撤兵ニ関シ回訓ノ件

政機密送第二八号

本件ニ関シ五月二十二日付機密公第一二三号貴信ヲ以テ御申越ノ趣閲悉駐屯軍隊撤退ノ義ニ附テハ追テ何分ノ義可申進ニ付夫レ迄ハ何等支那側ニ対シ御申入無之様致度尚四平街鄭家屯間鉄道敷設ニ関シテハ目下折角考究中ニテ不遠支那側ニ交渉開始ノ運ト可相成将又警察官駐在ノ義ハ当分現状ヲ維持スルコトト致度意嚮ナルニ付右様御含置相成度此段不取敢申進候也

五二一　六月二十二日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

洮南府中国官憲ガ林大尉ノ住宅借宅借入ヲ妨害ニ付報告ノ件

公第一二七号　（六月二十八日接受）

大正四年六月二十三日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

洮南府支那官憲カ林大尉ノ住宅借入レ妨害ニ関スル件

本月二十二日黒澤大佐来訪シ洮南府支那官憲ハ奉天巡按使ノ電命ニ依リ林大尉ノ挙動ヲ監視シ極力住宅借入レヲ妨害スル旨同大尉ヨリ申来レルニ付巡按使ヨリ速カニ洮昌道尹ニ訓令ヲ発シテ斯ル不法行為ヲ止メ林大尉ノ住宅借入ニ便宜ヲ与フヘキ旨命令スル様交渉方本官ニ依頼スベシトノ関東都督府西川参謀長ヨリ電命ヲ持参シ右交渉ヲ依頼シタルニ付本月二十二日他用ヲ以テ本官張巡按使ヲ訪問セル際本件ニ談及シ洮南府ニハ曩ニ木村大尉ノ居住セルヲ始メ同大尉ノ帰国ニ際シテ遠藤大尉之ニ代リ今回又遠藤大尉ニ代リテ林大尉同地ニ趣キタルガ同地々方官ハ巡按使ノ命令ナリト称シテ同大尉ノ住宅借入ヲ妨害スル由ナルカ右ハ甚ダ不都合ノ次第ニ付巡按使ヨリ該地方官ニ電命シ斯ル妨害ヲ為サザルハ勿論大尉ニ対シテ出来ル丈ケ便宜ヲ図ル様至急取計ハレ度旨申込候処巡按使ハ該地方官ニ対シ一応事実問合ハセタル上何分ノ処置ヲ可致旨答ヘタルモ本官ハ右ハ地方官ニ対シ事実問合ハセノ必要ナシ只ダ巡按使ヨリ林大尉ノ住宅借入ヲ妨害セサル様又同大尉ニ対シ相当便宜供与方該地方官ニ電命セラルレバ可ナリト申込ミタルニ巡按使ハ然ラバ林大尉ハ遊歴ナリヤ又同地ニ居住スル積リナリヤト反問セルニ付本官ハ同大尉ハ当分同地ニ居住スル積リナリト答ヘタルニ巡按使ハ稍ヤ暫ラク躊躇シタル後本官申込通リ洮南地方官ニ電命スル旨回答致候

右及報告候　敬具

本信写送附先　駐支公使

五二二　七月三十一日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

鄭家屯駐屯軍ノ洮南方面派遣阻止同駐屯軍撤退方ニ関シ中国側申出ノ件

附属書一　大正四年七月三十日附田奉天交渉員ヨリ落合総領事宛照会外字三一号

右件ニ関スル件

二　七月三十一日附落合総領事ヨリ中村関東都督宛公信

鄭家屯駐屯軍ノ洮南方面派遣ニ関シ問合ノ件

機密公第二一〇号　（八月六日接受）

大正四年七月三十一日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

鄭家屯駐屯軍隊洮南方面派遣阻止及該地駐屯軍撤退要求ニ関スル件

本件ニ関シ本月三十日附ヲ以テ当地交渉員ヨリ別紙甲号写ノ如キ照会ニ接シ候ニ付不取敢別紙乙号写ノ通リ関東都督ニ対シ洮南派遣隊ニ関シ問合中ニ有之候右支那側照会文中其末段ニ於テ昨年軍器輸送事件解決ノ際本官ガ交渉員ニ対シ眼前該兵撤退ノ手段ヲ講スベキコトヲ允シ又其後交渉員ガ本官ヲ訪ヒ本件提議ノ際ニモ商量弁理スベキ旨答ヘタルコトヲ述ベ居候モ右ハ只タ先方ノ要求ニ対シ之ヲ絶対ニ拒絶セザリシ迄ノコトニテ該地方静穏ニ帰シ軍隊駐屯ノ必要ヲ認メザル時期ニ達シナバ該地駐屯兵撤退ノコトヲ其筋ヘ稟申方考量シ置クベシト答ヘシノミニ有之候右及報告候

敬具

本信写送附先　在支公使

（附属書一）

甲號寫

照會外字三一號

大中華民國外交部特派奉天交渉員田　爲

照會事本月二十四日案奉

巡按使飭開本月二十二日據洮昌道王道尹電稱日本駐遼日軍派隊來洮等處應請迅與日領交涉並電中央向日使切實聲明日軍勿得違約至洮南等處等情除仍飭設法勸阻隨時查報並電達外合行飭仰該交涉員迅即與日總領事提議遏止正照會間又奉巡按使飭據洮昌道尹電據遼源縣稱日隊確有派赴洮南通遼鎮各八十等情查目下駐遼日軍正在交涉撤退豈能容其前進除電復並電中央外合行飭仰該交涉員迅與日總領事據約力阻并將交涉情形具報勿延等因查遼源駐兵一事上年解決昌圖案之時曾經

貴總領事面允容即設法撤回嗣又特赴貴館提議此案復經

貴總領事答以商量辦理乃延宕至今匪特未踐前言又於洮南等處有分駐兵隊之事揆之舊約新約均屬不合相應照請

貴總領事查照迅將前今所駐之洮遼一帶兵隊悉數撤退以符約章而昭大信盼切施行並希見復爲荷此照會

大日本駐奉總領事落合

中華民國四年七月三十日

（右和訳文）

本月二十二日洮昌道王道尹ヨリ日本ノ遼源駐屯軍隊ニテハ軍隊ヲ洮南等ノ処ニ派遣セントスルニ依リ速カニ日本領事ニ於テ御査照ノ上速カニ前後洮遼一帯ニ駐マル所ノ兵隊ヲ悉ク撤退シ以テ約章ニ符シ大信ヲ昭カニシ切ニ施行セラレンコトヲ盼シ併テ何分ノ御回答相成度此段照会得貴意候

落合総領事宛

中華民国四年七月三十日

（附属書二）

乙号写

大正四年七月三十一日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

関東都督男爵　中村覺殿

鄭家屯駐屯軍隊洮南方面派遣阻止方支那側ヨリ照会ノ件

本月二十二日洮昌道王道尹ヨリ電報ヲ以テ鄭家屯駐在ノ日本軍隊ガ洮南方面ニ軍隊ヲ派遣セントスルニ依リ日本領事ニ交渉スルト同時ニ中央政府ニ打電シテ日本公使ニ対シ日本軍ノ条約ニ反シテ洮南ニ至ルコトナキ様声明セラレタシトノ上申アリタルヲ以テ該道尹ニ対シテハ右軍隊派遣ヲ阻止スルノ手段ヲ講ジ尚ホ時々取調ベ報告スベキ様命令シ同

ニ交渉シ同時ニ中央政府ニ電報シ日本公使ニ向ツテ日本軍ノ条約ニ反シテ洮南等ノ処ニ至ルヲ得サル旨切実ニ声明セラレタシト電報ヲ以テ上申シ来リタルニ付阻止ノ法ヲ講ジ時々取調ベ報告スベキコトヲ電命シ置キタルモ交渉員ニ於テ速カニ日本総領事ニ対シ遏止ヲ提議スベキ旨本月二十四日附ヲ以テ巡按使ヨリ命令アリタルニ依リ正ニ照会セントセル際又巡按使ヨリノ命令ニ接到セルガ洮昌道尹ヨリ日本軍隊ハ確カニ洮南通遼鎮ニ各八十ヲ派遣スルコトトナレル旨遼源県知事ヨリ電報アリタル趣電報シ来レルガ抑モ目下遼源駐屯ノ日本軍隊ハ正ニ其撤退ヲ交渉中ニテ豈ニ能ク其ノ前進ヲ容サンヤト電報ヲ以テ回答スルト同時ニ中央政府ニ電報シタルモ交渉員ニ於テ速カニ日本総領事ニ対シ条約ニ拠リテ力阻シ交渉情況ヲ具報スル様取計ヒ遷延スベカラズトノコトニ有之候抑々遼源駐屯兵ノ一件ハ昨年昌図案解決ノ時曾テ貴総領事ガ眼前ニ撤回ノ法ヲ講ズベキコトヲ允シ其後特ニ貴館ニ赴キ此案ヲ提議セル時モ復タ貴総領事ハ商量辦理スベキコトヲ答ヘタルニ延宕今ニ至リ特ニ前言ヲ践マザルノミナラズ又洮南等ノ処ニ軍隊ヲ分駐セントスルノコトアリ之ヲ新約旧約ニ揆ルモ共ニ不合ナレバ貴総領事時ニ中央政府ニ電報シ置キタルモ速カニ日本総領事ニ対シ右阻止方ヲ提議スベキ旨本月二十四日附ヲ以テ巡按使ヨリ命令ニ接シ正ニ照会セントセル際再ビ巡按使ノ命令ニ接到セシニ洮昌道尹ヨリノ電報ニ拠レバ日本軍隊ニテハ洮南ト通遼鎮ニ各八十ノ兵ヲ派遣スルコトニ確定セル旨遼源県知事ヨリ電報アリタル趣ナルガ目下遼源県駐在ノ日本軍隊ニ対シテハ其撤退方交渉中ナルヲ以テ豈ニ其前進ヲ許サンヤ右該道尹ニ回答スルト同時ニ中央政府ニ電報シタルモ交渉員ニ於テ速カニ日本総領事ニ対シ条約ニ拠リテ力阻セヨトノコトニ有之候付右軍隊ノ洮南方面派遣方阻止セラレ度旨本月三十日附ヲ以テ当地交渉員ヨリ照会致越候処右軍隊分遣云々ハ果シテ事実ニ有之候哉御意見ト共ニ御回報相煩度此段得貴意候也

本件ニ就テハ外務大臣ヘ禀申ノ次第モ有之候ニ付為念申添候也

五二三　八月十二日　在奉天落合総領事ヨリ大隈兼任外務大臣宛

鄭家屯駐屯軍ノ洮南方面派遣阻止及該地駐屯軍撤退ニ関スル中国側申出ニ対シ回答ノ件

附属書一　八月十一日附中村関東都督ヨリ落合奉天総領事宛機外第七一号ノ三鄭家屯駐屯軍ノ洮南方面派遣ニ関シ回報ノ件

二　八月十二日附落合奉天総領事ヨリ田奉天交渉署長宛公文第二九号鄭家屯駐屯軍ノ洮南方面派遣ノ事実ナキ旨回答ノ件

公第二〇三号

大正四年八月十二日

在奉天

総領事　落合謙太郎(印)

外務大臣伯爵　大隈重信殿

本件ニ関シ曩ニ支那側ヨリ照会致越候次第ハ客月三十一日附機密公第二一〇号ヲ以テ不取敢及報告置候通ニ有之候処右ニ関シ関東都督府ヨリ別紙甲号写ノ通リ回答有之候ニ付乙号写ノ通リ支那側ニ回答致置候ニ付此段報告ニ及ヒ候

敬具

本信写送附先　在支公使

(附属書一)

甲号写

機外第七一号ノ三

大正四年八月十一日

関東都督男爵　中村覺

在奉天総領事　落合謙太郎殿

鄭家屯駐屯隊洮南方面派遣ニ関スル件

本件ニ関シ七月三十一日附機密都第八号貴信ヲ以テ御照会相成了承致候処調査ノ結果軍隊派遣ノ事実並ニ意見無之ニ付右支那側ノ申出ハ何等カ誤聞ニ拠ルモノト被存候条然様御了知ノ上支那側ヘハ可然御回答相煩度此段回答得貴意候

敬具

(附属書二)

乙号写

公文第二九号

以書翰致啓上候陳者客月三十日附外字三一号ヲ以テ在鄭家屯駐屯本邦軍隊カ洮南及通遼鎮方面ニ一部隊ヲ派遣シタル趣王洮昌道尹ヨリ電報有之候由ニテ之等軍隊ノ撤退方御照会越ノ趣致閲悉候右ニ関シ其筋ニ就キ及調査候処御来示ノ如キ軍隊派遣ノ事実無之貴方ニ於テ何等誤聞アルニアラスヤト被思考候条右様御了知相成度此段回答得貴意候　敬具

大正四年八月十二日

在奉天

総領事　落合謙太郎

奉天交渉署長　田潛殿

五二四　十月六日　在奉天矢田総領事代理ヨリ大隈兼任外務大臣宛

鄭家屯駐屯軍ノ通遼鎮方面派遣中止方並同駐屯軍撤退方ニ関シ中国側申出ノ件

附属書　大正四年十月二日附馬奉天交渉署長ヨリ矢田奉天総領事代理宛照会外字四七号

鄭家屯駐屯軍ノ通遼鎮方面派遣中止並同駐屯軍撤退方ノ件

公第二五六号

大正四年十月六日

在奉天

総領事代理　矢田七太郎(印)

外務大臣伯爵　大隈重信殿

本件ニ関シテハ既ニ本年八月十二日附公第二〇三号ヲ以テ一応及御報告置候処今般支那側ヨリ別紙写ノ通リ更ニ鄭家屯駐屯隊カ通遼鎮方面ニ派兵ノ計画アルハ事実ニシテ唯之カ実行期定マラザルモノナルコトヲ確知セル旨報告ニ接セル趣ヲ以テ之カ中止方並ニ該駐屯隊ノ撤退方要求致越候ニ付不取敢中村関東都督ニ対シ右事実ノ有無及支那側要求ニ対スル回答振リ等併セテ回示方申進置候間御参考迄ニ此段及御報告候　敬具

本信写送附先　在支公使

(附属書)

寫

照會外字四七號

大中華民國外交部特派奉天交渉員馬　爲

照會事本年八月十二日接准前總領事落合第二九號公文内開洮南及通遼方面並無來函所稱派遣軍隊之事想係出於貴國方面之何處誤聞等因經前特派員詳明

巡按使飭洮昌道尹再行切查具復茲奉

巡按使飭開據洮昌道道尹王來詳稱查此案前據洮南警察所長梁横報稱游洮日人林大八昨函駐遼日軍派隊來洮等語即飭往詢該日人雖未承認而語涉含糊當經電請鈞署迅與日領切實聲明日軍勿得違約至洮並飭遼源縣就近查察果有此事立即電達以便先事阻遏旋據該縣知事錢恩溥電稱據探報日軍確有派赴洮南通遼鎮各八十之議但尚無實行准期等情查日隊來洮既經

探明確有是議自應請向日領預爲聲明以遏其進行之路非謂業已來洮要求撤退也既准日領事復稱並無派遣軍隊之事仍請飭由交渉特派員預爲聲明等情除批示外合行飭仰該員卽便遵照辦理並請日領迅將遼源駐兵悉數撤回以符約章等因相應照會貴總領事查照設法將派日軍赴洮南通遼鎭各八十之議取銷俾符前言並希將駐遼源兵隊撤退以符約章而昭大信此照會

大日本駐奉代理總領事矢田

中華民國四年十月二日

（右和訳文）

以書翰致啓上候陳者本年八月十二日附公文第二九号ヲ以テ落合前総領事ヨリ洮南及通遼鎭方面ニハ御来示ノ如キ軍隊派遣ノ事無之貴方ニ於ケル誤聞ナラント思考セラレ候云々ト御申越相成右ノ次第前交渉員ヨリ巡按使ヘ上申シ洮昌道尹ニ再応詳査方下命致置候処該道尹ヨリ命ニ依リ調査致候処本件ニ関シテハ前キニ洮南警察所長梁横ノ報告スル処ニヨレハ洮南ニ游歴中ノ日本人林大八ナル者ヨリ昨日書面ヲ以テ駐遼（鄭家屯）軍隊ヨリ洮南ニ派兵シ来ル云々ノ申越アリタルヲ以テ直ニ往訪問ヒ質スヘク命シタルニ同日本人ハ未タ之レヲ確言セサルモ言語曖昧ナリシヲ以テ当時直ニ報告シ日本領事ニ対シ日本軍隊カ条約ニ違ヒ洮南ニ至ルヘカラサル旨声明方ヲ請ヒ一方遼源県ニ命シ現場ニ於テ探査シ果シテ此ノ事実アラハ直ニ電報シ以テ事前ニ阻止スルニ便スヘキ旨下命シ置ケルニ該県知事錢恩溥ヨリ日本軍ハ確ニ洮南及通遼鎭ニ各八十名ヲ派遣スルノ計画アルモ尚ホ実行期ヲ定メサルモノナルコトヲ探知シタル旨報告アリタリトテ電報有之候査スルニ日本軍隊来洮ノ儀ハ確ニ此ノ計画アルコトヲ探明シタル次第ナルヲ以テ勿論日本領事ニ対シ本計画ノ進行ヲ阻止セラレンコトノ声明方ヲ請ハサルヘカラス其既ニ来洮セルモノニ対シ撤退ヲ要求スルニ無之候然ル処日本領事ヨリ既ニ軍隊派遣ノ事無之旨回答アリタルモ更ニ交渉特派員ヨリ預メ右ノ声明ヲ為ス様命セラレタシト復命アリタル趣ニテ右様取計フヘク又日本領事ニ対シ鄭家屯駐屯隊モ悉ク撤退シ以テ条約ニ符合セシムル様要求スヘシト巡按使ヨリ下命有之候ニ付テハ前陳ノ次第参照日本軍隊ヲ洮南通遼鎭等ヘ各八十名ノ兵ヲ派スルノ計画ヲ取消シ以テ前キニ御申越相成候御来示ノ趣ニ一致セシメラレタク又鄭家屯駐屯隊ヲ撤退シ以テ条約ニ違ハサル様御取計相成度此段照会得貴意候　敬具

事項九　奉天榊原農場紛争ニ関スル件

五二五　三月一日　在奉天落合総領事ヨリ加藤外務大臣宛

榊原農場ノ区域問題ニ関シ中国側ヨリ証拠書類送付越シノ旨並榊原ノ言動ニ付報告ノ件

機密公第六〇号　（三月六日接受）

大正四年三月一日

在奉天

総領事　落合謙太郎（印）

外務大臣男爵　加藤高明殿

榊原農場ニ関スル件

本件区域問題ニ関スル証拠書類提出方ニ関シ再応支那側ヘ申入置タル次第ハ客月二十三日附機密公第四〇号ヲ以テ及稟報候処田交渉員ヨリ一昨日附公文ヲ以テ証拠ノ一ト認ムヘキ書類ヲ送リ来リ候ニ就テハ目下双方提出ノ書類ニ付研究中ニ有之候条近々委細報告致度存居候然ル処一方榊原ハ正金ヨリ借款ノ件ニ付其得タリト称スル権利ノ証明方願出ノ為メ過日日本官来訪ノ砌別紙(註)写ノ如キ図面ヲ提出シ大清会典及同会典事例ニヨレバ同図面赤線内ハ奉天城内ヲ除ク外全部昭陵ノ禁地トシテ溥豊公司ノ経営スベカリシ地域ナルニヨリ榊原之ヲ継承シタルモノナル旨ヲ述ヘ漸次右地域ニ就テモ自己ノ権利ヲ主張シ全部ヲ獲得スルコト不可能ナリトセバ其三分ノ一位ハ是非共自己ノ手中ニ収メタキ旨申述居候右赤線中地域中ニハ奉天城以外ノ市街地即従来永年支那人民ノ所有スル地区或ハ外国人ノ租借セル土地即所謂商埠地ヲ含ムノミナラス我鉄道附属地ヲモ全部包含スルモノニシテ此レノミヲ以テ見ルモ榊原ノ主張ノ如キハ一嘘ニ値セサル次第ニ有之依テ本官ハ此等無法ノ主張ヲ為スモ何等価値無ク徒ニ事端ヲ紛糾セシムルニ過キス甚不得策ナル所以ヲ申聞ケ置候ガ近来聞ク所ニヨレバ同人ハ正金銀行借款談モ不成立ニ終リ手許不如意トナリタルニヨリ自暴ノ念ヲ起シ高圧手段ヲ以テ支那側ニ対シ前記地域ヲ今一層拡張スルコトヲ企テ居ル趣当地ノ者ニ申越来リタル由ニ有之候尤モ斯ル考ヲ有シ居レバトテ先年関東都督府陸軍部ノ保護ヲ得テ理非ニ係ハラズ強行シタルト同様ノ手段ニ出テサル限リ何等成効スヘキ理由無キ次第ナルモ榊原ハ此種手段ニ狎